

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル「ICTを活用して、子育て層を地域コミュニティとつなげたい」	自治体名 大阪市
アイデア名(注2) (公開)	子育てが楽しめるユーザー参加型の情報アプリ		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	ママcafé～子育ても自分も楽しみたいママ集合～		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	3名		
代表者情報	氏名(公開)	宮崎敦子	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

子育てが楽しめるユーザー参加型アプリの開発

<解決アイデアの内容>

子育てや、暮らし、地域に特化した情報を集約した情報アプリ。

<機能>

「見る、調べる、投稿する」3機能で、アカウント（ニックネームも可）を取得し、地域の人と人の繋がりや交流を楽しむコミュニティ参加型の情報サービスアプリ。

情報を閲覧するだけでなく、参加するユーザーが自分の地域の情報や、子育てに関する情報などを投稿することでより身近でリアルな内容を知ることができる。また、質問や悩みを投稿することで、他のユーザーから回答をもらったりできる。

インターネットを活用するメリットとして、顔を知られずに行える気軽さと、環境が整っていれば24時間対応可能なことが便利。

ユーザーに主体的にアプリにコミットしてもらうために、投稿することでポイントがもらえ、ポイント数によって地域通過に還元できる仕組みにする。

アプリの主なセクションは、9つ。

①「暮らし」②「子育て」③「仕事」④「遊び」⑤「行政」⑥「病気ケガ」⑦「学校」⑧「お店」⑨「その他」

①「暮らし」は、始めてその街に住む人が暮らす時に、どこに何があるか、情報を集約

②「子育て」は大まかな月齢や年齢に分けて、その時に知っておくとよい子育て情報。

③「仕事」は、働いている母親の一時保育や、突発的に子どもを預けたい時の情報や働きたい母親のために、利用できる行政サービスを複合的に紹介できる事業を紹介（生活困窮者自立支援事業のようなものを）。

④「遊び」は、子育てサロンや、各地域の遊び場（公園など）、子どもが楽しめるスポットを紹介、赤ちゃんでも楽しめる公園、小学生以上向きの公園、雨でも遊べる施設の紹介。

⑤「行政」は各検診案内等や子育てに関する講座の紹介。

⑥「病気やケガ」は、各症状に関するケアや予防感染対策の紹介。→スマートフォンで予防接種のスケジュー

ール確認できたり、小児科の情報等を集約してあると嬉しい。生活困窮者自立支援事業のようなサポートが母親にもできればよい。

- ⑦ 「学校」は保育園や幼稚園、小中学校の案内。
- ⑧ 「お店」は子供連れオッケーのお店の情報 託児あり、子供連れ歓迎などの美容院、接骨院、居酒屋、カフェなど
- ⑨ その他は、各項目に該当しないもの 街でみつけた話題やスクープなど。

#### ■ユーザー参加型でポイントを貯めるには。。。

・各セクションの中で情報を提供する。例えば、④「遊び」では、こんな公園に遊びに行って、こうだった、楽しかったなどの感想を投稿する。⑥「病気」は、子どもがこんな病気に羅漢してこうして治った。方法や気持ちを共有。⑦「学校」は保育園の見学に行ってきた感想や、小学校入学前にこんな準備したよ、などの情報。⑧「お店」は子連れでも楽しめた、子連れに対して受け入れ大歓迎だった！などのお店の感想。

同じ環境の子育て層のリアルな声や情報から安心感が生まれます。表記されている情報をより活かした情報にするために、ユーザーの声を投稿することで、クオリティの高い情報提供にも繋げる狙い。

・各セクションに質問できる機能も装備。それに対して回答できる仕組みにし、質問したユーザーがベストアンサーを最終的に決める。ベストアンサーの回答をしたユーザーにポイントがもらえる。

・また地域のイベントやお祭りのお手伝い、PTA 活動をするとポイントがもらえる。(これは、代償行為で条件付きだから参加するというイメージにもなりやすいですが、地域活動に参加するはじめての第一歩のきっかけと考えています。参加した後に、お手伝いに関わった後に、地域に関わることの楽しさや、居場所を見つけていくことや多世代の交流をつくっていくことが本当の狙い)

#### ■ポイントを貯めると地域通過に還元できる仕組み

##### ↓懸念事項

- ※何をどうして何ポイントもらえるのか。
- ※何ポイントで地域通過に還元できるのか。
- ※地域通過として、どの団体、お店に協力してもらえるのか。

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### 背景

誰もが自分らしさを発揮し、自分らしい人生を歩む社会を創造したい！

という信念のもと、それを実現するには、ひとり一人の「自己肯定感」を育むことが不可欠です。

自己肯定感を育む鍵を握っているのは幼少期に親子の絆を育むことだということが  
実体験を経て確信しています。

子どもたちに生きる力、ひいては自己肯定感を育む親子の絆を確かなものに

するには、子どもにとって一番身近な存在である親との関わりが大きなウエイトをしめます。

そこで、子育てをする親のサポートや支援をしていくこと、環境整備をしていくことが基盤だと考えました。

様々な地域活動をして、聞こえてきた親の声、地域の子育て支援に関わっている人達の声。

そこには、少しギャップがあり、お互いのニーズや提供サービスにズレが生じていました。

今回、主宰している子育てサロンに参加している母親にアンケートを取り、また行政から乳幼児検診のデータから見える子育て層のニーズを元に地域課題を抽出しました。

一番の声は「情報がほしいこと」。「居場所がほしいこと」。「子育て仲間の繋がりがほしいこと」

しかし、それらの課題解決や施策、取り組みは地域に存在しているのに、必要としている人に届いていないという  
現状が見えてきました。

そこで、地域に特化したユーザー参加型の情報アプリの開発を考えました。

インターネットならではの便利さと、セキュリティを整えれば安心して気軽に地域で同じ境遇の当事者同士の仲間と繋がれる。

投稿機能でポイントを取得でき、主体的にコミットできる。ポイントは地域通過に還元することで利用できる対価は  
地域に親しみをもち、地域活動に参加していきかけができる。

また地域通過の発行に協力してもらい、地域のお店や団体、施設との関わりを促すことができる。

子育て層と地域、お互いが嬉しい仕組み。

### ※使用データ

- ・子育てサロン「ママ café@fukushima」に参加の母親の声
- ・大阪市福島区保健福祉センターより、乳幼児検診データ。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

・アプリを作成するにあたり、各セクションの情報をまとめる

↓

・各セクションの情報提供協力者を募る

↓

・地域通過の発行元募集

↓

・アプリ作成、業者依頼

↓

・テストマーケティング

↓

・施行後、課題抽出、解決。

↓

・リリース

※アプリ運営資金は広告収入や、地域通過還元に協力していただくお店や団体などから。